Mito City International Association

（公財）水戸市国際交流協会機関紙
第66号
2020.3

第33回国際親善姉妹都市アナハイム市親善訪問及びアメリカ文化・行政視察団が派遣されました

2019年10月18日から10月25日までの８日間、阿部真也水戸市国際交流協会理事長を団長とする総勢13名の親善訪問団が、国際親善姉妹都市であるアメリカ・アナハイム市を訪問しました。

出発前の台風19号の被害により、水戸市側の多くの関係者が渡航を断念し、災害対応のために水戸に残る中で送り出された今回の訪問団でしたが、ハリー・セデュー市長をはじめとするアナハイム市関係者の皆さんに熱烈な歓迎を受けるとともに、３年ぶりとなる訪問で、両市間の友好交流を深めるという目的を無事に果たすことができました。

また、今回の訪問において、水戸市からアナハイム市への、16年ぶりとなる雛人形贈呈が行われました。以前贈られた雛人形が今回リニューアルされ、アナハイム市庁舎に展示されました。今後も末永く両市の友好の証として、親しまれていくことでしょう。

雛人形贈呈（アナハイム市庁舎にて）

アナハイム市親善訪問団　行程表			
10月18日（金）	成田空港からロサンゼルスへ ロサンゼルス市内視察	10月22日（火）	アナハイム市親善プログラム（公式行事） （市長表敬訪問、雛人形贈呈式、歓迎昼食会 など）
10月19日（土）	ロサンゼルス市内見学 （ゲティ美術館、ファーマーズマーケット など）	10月23日（水）	アナハイム市親善プログラム（公式行事） （ベッツィー・ロス小学校訪問、ロアラ高校訪問、エンゼルスタジアム視察 など）
10月20日（日）	ロサンゼルス市内視察 アナハイムへ移動	10月24日（木）	アナハイム発
10月21日（月）	自由行動	10月25日（金）	水戸市役所着

アナハイム訪問団～行動の記録～

アナハイム親善プログラム1日目 <10月22日> （市庁舎訪問、アナハイムバレエ団見学など）

2018年12月にアナハイムの新しい市長となられた、ハリー・セデュー市長を表敬訪問しました。アナハイム市庁舎では、水戸市からアナハイム市への雛人形の贈呈式も行われました。市議会を訪問した際には、議場で訪問団が紹介されました。

市長表敬訪問

寄贈された雛人形の展示

市議会訪問

アナハイムバレエ団と

アナハイム親善プログラム2日目<10月23日> （市内学校視察、エンゼルスタジアム、ミュゼオ視察 など）

ベッツィー・ロス小学校では、プログラミングの授業など、科学技術や語学学習に力を入れた、先進的な教育の取り組みを視察しました。ロアラ高校では、日本語クラスの様子や、校内に設けられた銀行の支店を通じて、金融や社会の仕組みを学ぶことができるカリキュラムなどを視察しました。また、大谷選手が所属するエンゼルスの本拠地であるエンゼルスタジアムや、アナハイムにおける日系人強制収容に関する特別展が開催されていた市博物館「ミュゼオ」を見学しました。

ベッツィー・ロス小学校のプログラミング授業

ロアラ高校の日本語クラス

エンゼルスタジアム

ミュゼオにて

重慶市友好交流都市20周年を迎えます

水戸市と中華人民共和国重慶市は、平成12年（2000年）に友好交流都市となり、今年で20周年を迎えます。

重慶市は、中華人民共和国の4つの直轄市の1つであり、人口約3,000万人を誇る、中国西南部における商工業の中心地です。長江と嘉陵江の合流地点にあり、四方は山に囲まれ、「山城」「江城」「霧の都」とも呼ばれます。

昭和60年（1985年）、孫平化中日友好協会副会長（当時）が水戸市を訪問したことをきっかけに、相互に訪問を重ねました。平成5年（1993年）に水戸市で開催された第10回全国緑化フェアに、重慶自然博物館所蔵の恐竜化石の出展を重慶市に要請し、重慶市人民政府や中国国家文物局などの支援を得て水戸市が出展した「恐竜館」が多くの入場者を集めたことを契機に両市の人的交流が進み、平成12年（2000年）3月、市議会定例会の本会議で、友好交流都市提携についての議案が満場一致で可決されました。同年6月に岡田広市長（当時）を団長とする使節団が重慶に派遣され、友好交流都市提携合意書の調印が行われました。

節目の年となる本年は、重慶市への訪問団の派遣や、重慶市からの訪問団の受け入れ、関連イベントの開催など、記念行事を予定しています。

多文化共生理解講座を開催しました

水戸市国際交流協会では、多文化共生への理解を深め、同じ地域の外国人住民との相互交流を促進できるよう、日本語教育や多文化共生をテーマにした講座を開催しました。

本年度第1弾（10月実施）では、「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションスキルを学ぶ「やさしい日本語コミュニケーション講座」を開催しました。つづく第2弾（1月実施）では、日本語教育学や多文化教育学の専門家であり、東京都にある日本語学校「にんじんランゲージスクール」校長の山田泉氏を講師に迎え、多文化共生理解講座「多様性を豊かさとする地域社会ー外国人市民との共生を目指してー」を開催しました。講師の山田先生は、文化の違いや多様性、その捉え方などから日本の教育に関連した社会構造についてまで幅広く語られ、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

◎日本人は、時間にルーズ！？

講座の中では、「多文化理解クイズ」や参加者同士でのグループディスカッションの機会が設けられ、多文化共生の観点や異文化について理解を深めました。

海外滞在等の経験を持つ参加者が多く、グループごとの異文化体験談の発表では、「インドネシアでは初対面の相手に個人的な質問をたくさんする傾向にあるが、それは相手と仲良くしたいという好意的な行動であること」や、「韓国では年齢を重視しており、年上を敬う精神が日本よりも強くあること」などが挙がりました。そんな中、講師が披露したエピソードは、ある外国人に「日本人は時間にルーズだと思います。」と意見されたことでした。理由を聞いたところ、「日本人の会議はなかなか終わらないから。」と返されたそうです。

◎命を守る日本語

水戸市国際交流センターを拠点に、外国人市民への日本語学習支援活動する日本語教室ネットワーク（以下MIJネットワーク）のために、同講師による研修会が併せて実施されました。MIJネットワークのメンバーは、日頃の活動での不安や疑問点などを相談し、アドバイスを受けながら、地域の日本語学習支援について意見交換をしました。

講師は、各地で行われる外国人支援の中で、「自分や家族の命を守る」という目的の日本語学習が抜けていると言及しました。緊急時に「助けてください！」というフレーズを教える教科書は無く、自分や家族の身に何かがあっても、日本語が話せず助けを求められない事態が起こりうるのです。命を守るための言葉は、日本で生活する外国人にとって本当に必要な日本語の一つと言えます。

◎よりよい多文化共生社会にするために

日本の国際化が進む現在、「多文化共生」という言葉は大変注目されており、各地域では様々な施策が実行されています。昨年4月の改正入管法による新たな在留資格の開設は、その流れをさらに加速させ、外国人数の増加や国籍の多様化への対策が求められています。これらの変化に対応できるよう、地域の日本人住民が「ホスト社会」側としての意識を持つことも重要ではないでしょうか。山田先生は、立場や考え方が違うことで摩擦が生じた場合でも、話し合いからお互いを理解し合い、歩み寄ることが大切であると伝えました。

講座参加者の感想

◆わかりやすい解説で、多文化共生を学ぶことができました。◆多文化共生とは、国際化の中の話だけではなく、今の日本社会の中にある個人尊重や性的マイノリティなど許容しなければならない時代であると認識できた。◆文化＝「世界の見方・見え方」で捉えると、国による文化が見えてくるように思った。◆異なる視点で文化の違いをお互い認めることでよりよい社会を築けると思いました。

Mito City International Association

国際交流団体活動紹介展　2020年開催予定

2月から5期にわたり、20団体の活動をパネル展示で紹介していきます。スケジュールは以下の通りです。
期間中各団体ともイベントデーを予定しており、イベントを通した活動紹介を兼ねて、団体のメンバーが会場で皆様をお待ちしています。メンバーとのより深い交流を図ることができます。ぜひご来館ください。

期　間	展示団体
①2020年2/22(土)～3/22(日)	メサフレンドシップ、グローバラキグループと支える会、茨城県日独文化協会、茨城県日中友好協会、水戸市日中友好協会
②2020年4/11(土)～5/24(日)	(公財)ラボ国際交流センター、WYCCI、スリランカとアジアの友の会、ラブニール、日本・バングラデシュ文化交流会
③2020年6/13(土)～7/12(日)	サンコファ、茨城県ユニセフ協会、外国人親子国際交流ネットワーク、中国武術茨城推進協会
④2020年9/5(土)～10/4(日)	日本ベトナム友好協会茨城県連合会、水戸国際コミュニケーションズ、「茨城アジア教育基金」を支える会、AFS日本協会茨城水戸支部
⑤2020年11/7(土)～12/13(日)	水戸ユネスコ協会、オルビス、水戸内原国際交流ふれあいの会

※茨城県日中友好協会と水戸市日中友好協会は合同展示

事業報告

●ことばのひびきを楽しもう～世界のことばでよみきかせ～ドイツ語×日本語の巻 (12月7日)

ドイツ語と日本語で同じ絵本の読み聞かせを行い、ことばの響きの違いを感じました。ネイティブによる表現豊かな読み聞かせに、大人も子どもも大喜びでした。

●親と子の国際講座～みんなで楽しく世界の遊びを体験しよう！～ (1月25日)

クイズやゲーム、フランス料理のクレープを楽しみつつ、親子一緒に世界各国の文化に親しみました。

●国際交流月見パーティー (2月1日)

外国人参加者によるお国紹介、インド人女性グループによる南部地方の伝統的な踊り、さらにイタリアと中国、日本の料理を通じて、世界各国の文化に触れました。

●どようサロンティーパーティー～スペイン編～ (2月8日)

前半はスクリーンを使った、スペイン紹介コーナー。後半はスペインのお菓子を味わいつつ、参加者は思い思いにスペイン人講師との会話を楽しんでいました。会場は多くの参加者で大盛況でした。

●世界の料理～インド編～ (2月22日)

日本滞在期間5年以上のインド人講師が、風味豊かな本場のインドカレーを紹介しました。

◇なるほど!世界セミナー　東南アジアの宗教美術～世界遺産アンコール遺跡群にみる祈りのかたち～(3月8日)

◇国際交流のつどい～ベルギー編～(2月29日～3月22日)

展　示:「ベルギー王国と茨城県・水戸市・ひたちなか市～交流の軌跡～」
講演会:「ベルギーへのお誘い・世界遺産、ベルギービール」(3月15日)

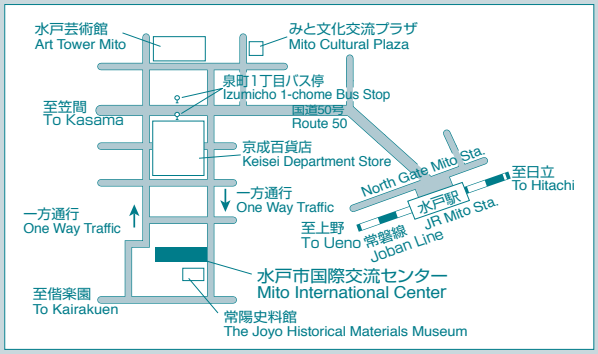
◇ことばのひびきを楽しもう～世界のことばでよみきかせ～英語×日本語の巻(3月28日)

コロナウイルス感染症拡大防止のため、水戸市国際交流センターを3月3日～3月31日まで休館することとし、期間中の上記イベントは、当面中止といたしました。今後の予定につきましては、決定次第お知らせします。

◇機関紙へのご意見をお待ちしています。機関紙のコーナー、特集で取り上げて欲しい記事等、何でもお寄せください。

開館時間：午前9時から午後9時まで
休 館 日：月曜日、祝日(土曜日を除く)、年末年始

〒310-0024　水戸市備前町6-59
水戸市国際交流センター内
(公財)水戸市国際交流協会
Tel 029-221-1800 Fax 029-221-5793
E-mail　mcia@mito.ne.jp
ホームページ　https://mitoic.or.jp/



地球環境に優しい「大豆油インキ」を使用して印刷しております。
(Printed by KOWA PRINTING Co.LTD.)
PRINTED WITH SOY INK